

守口市生涯学習情報センター指定管理者制度 総合評価(施設所管課による評価)

【評価対象施設】 守口市生涯学習情報センター

【指定管理者名】 公益財団法人守口市文化振興事業団

【評価対象年度】 平成28年度

【施設所管課名】 市民生活部 生涯学習課

施設のサービス水準の視点 コメント

施設利用者数は昨年度と比較し約7,100人増加しているものの、貸館としての施設利用率については年々下降傾向が見られるため、利用率の増加に繋がる具体的な取組み(新規事業の実施・新たな広報活動等)が守口文化センター同様必要である。図書フロアについては、利用者数が昨年度と比較し約700人の微増はしているが、今後も利用者からの問合せ・苦情等についても適切に対処し、図書サービスの更なる向上に努める必要がある。

収支状況 コメント

平成28年度については、約750万円の黒字決算である。最大の要因としては、支出面での抑制(電力の自由化による光熱水費の削減・人件費の削減等)が挙げられるが、経費削減による収支バランスの改善だけではなく、利用料金収入はもとより、文化事業収益の増加による改善が必要である。今後も、支出面での抑制は継続して図るとともに、利用者のニーズに沿った事業展開を効率的に実施し、施設の適切な管理運営に努める必要がある。

市(施設所管課)による総合評価

子どもから高齢者を対象とした幅広い事業を展開し、生涯学習の推進に努めている点は評価できるが、施設の稼働率については、守口文化センター同様、年々下降傾向にある為、当該施設を貸館として使っていただくための新たな営業活動(チラシ作成等)を行うなど、施設利用者数の増加に繋がる取組みの実施が必要である。

また、収入面においても、黒字決算である点は評価できるが、収入目標大きくを下回っており、利用料金収入の増加に努められたい。

利用者アンケート調査については、十分な標本数を確保すべきである。実施方法についても、既存の紙ベース集計だけではなく、ウェブ上でも回答できるよう意欲的に情報収集する工夫が求められる。加えて、図書の統計資料や得られた情報(「アンケートの集約結果」・「要望に対する対応策」等)をホームページで発信提供することで、利用者により密接な関係性の構築が可能となり、リピーターの確保へと繋げるべきである。

特に、今後、他市の類似施設との競争が激化することが予想されることから、民間ならではの柔軟な事業手法を活かした事業展開を行い、市生涯学習情報センターとしての「個性」を確立させ、守口文化センターとの魅力・特徴の分化を図る等、より一層の利用者獲得の努力が必要とされる。

結びとして、当該施設の位置する大日駅前周辺は交通拠点であり、且つ、複数の電鉄会社や大規模商業施設・居住施設が集積するエリアのため、これらの企業や地域住民との協働で事業展開を行なう等、好環境を活かした大日都市核の魅力向上の一翼となるよう努められたい。

総合評価

B

総合評価区分

- A : 協定事項等を上回る水準で施設運営がされ、大変良好なサービスが提供されている
- B : 概ね協定事項等の水準どおり施設運営がされている
- C : 協定事項等の水準以下であった